

## レジ袋削減や、包材等の素材を植物性由来配合やリサイクルPET等に変更 イトーヨーカドーのプラスチック対策について

株式会社イトーヨーカ堂（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：山本 哲也、以下イトーヨーカ堂）は、社会ニーズの変化や環境問題等、様々な社会環境の変化に対応するひとつとして、店舗で行っているプラスチック対策についてお知らせいたします。

イトーヨーカ堂は、セブン&アイグループの環境宣言『GREEN CHALLENGE 2050』に基づき、プラスチック対策として、鮮魚や青果等で使用する容器をバイオマスやリサイクルPET 素材への切り替えや、精肉等ではトレイを使用しない「ノントレー包材」の採用を推進してまいりました。また、レジ袋等の配布抑制として、プラスチック削減の呼びかけおよびマイバッグの使用を推奨をした結果、現在レジ袋の辞退率は約 8 割になっております。レジ袋代金における本部収益相当額については、店舗が所在する行政機関等に環境保全を目的に全額寄付をしてまいりました。

今回、4 月より施行される「プラスチック資源循環促進法」への対応として、お客様に対しポスター掲示やレジ等にてカトラリー類の要・不要を確認するとともに、プラスチックカトラリーを「環境配慮型カトラリー」に変更することにより、従来に比べて石油由来のプラスチック使用量を 25%削減に繋げてまいります。また、割り箸の包装もプラスチック製から紙製に 3 月中旬以降順次、切り替えてを実施していくことにより、年間約 9 トンのプラスチック削減が見込まれます。

<取り組み内容の一例>

### ◆スプーン等のプラスチックカトラリーや割り箸の素材や包材の切り替え

- 実施時期 : 2022年4月1日（金）以降順次切り替え
  - 店舗 : 全国のイトーヨーカドー129店舗（2022年2月末現在）
  - 対象 : ①プラスチック製のスプーン、フォーク等 ②割り箸の包装
  - 内容 : お客様が弁当や惣菜等を購入される際にお渡しするカトラリーを変更。
- ①スプーンやフォーク等のプラスチックカトラリーを、植物性由来（バイオマス）の素材を 25%配合した「環境配慮型カトラリー」に変更。
  - ②割り箸の包材をプラスチック製から紙製に変更。



#### ◆レジ袋代金における本部収益相当額の寄付

■内容：2021年1月から12月の1年間において、レジ袋代金における本部収益相当額について、店舗が所在する行政機関等、計19箇所に対して環境保全を目的に、2022年2月末までに全額寄付をいたしました。

#### ◆鮮魚の一部容器をリサイクルPET素材に切り替え

■内容：2021年12月から鮮魚売場で主に切り身用で使用する容器をリサイクルPET素材に切り替え。

【切り替え前】



【切り替え後】



#### ◆青果の一部商品で使用する包材をバイオマスフィルム素材に切り替え

■内容：2020年12月からイトーヨーカ堂のオリジナルブランド「顔が見える野菜。」の一部商品において、使用する包材をバイオマスフィルム素材に切り替え。

【バイオマスフィルム素材に切り替えた商品の一例】



※まいたけの中皿トレーは、ペットボトルのリサイクル原料を配合したトレーを採用

#### ◆精肉の一部商品ではトレーを使用しない「ノントレー包材」を採用

■内容：2019年11月からイトーヨーカドー国領店にて精肉の一部商品でトレーを使用しない「ノントレー包装」を採用。その後、順次、首都圏店舗にて拡大展開。



#### 《ご参考》

#### ◆セブン&アイグループの環境宣言『GREEN CHALLENGE 2050』



- ・2019年5月8日にセブン&アイ・ホールディングスが発表。
- ・お客様やお取引先様をはじめ全てのステークホルダーの皆様と共に“豊かで持続可能な社会”の実現に向け取り組んでいくことを宣言。
- ・4つのイノベーションチームを立ち上げ、グループ横断での対応を推進。

・ URL: [https://www.7andi.com/sustainability/g\\_challenge/](https://www.7andi.com/sustainability/g_challenge/)

以上

明日にいいこと。つなげる、つづける。